

iKO Project

魅力ある学校づくり ~iKO プロジェクト~

計画と達成基準

中間達成状況（9月末現在）

最終達成状況

1

生徒一人ひとりの進路実現

学ぶ力の育成と学力の向上
授業改善による教師力の向上
統一した指導による規律ある生活態度の育成

教務課	園芸科
進路課	家政科
生徒課	

総合評価

B

2

地域と連携したグローバル人材の育成

地域に学ぶ「総合的な学習の時間」の充実によるキャリア教育の推進
コミュニケーション力・プレゼンテーション力(表現力)の向上
英語力・英語コミュニケーション力の向上

教務課	園芸科
進路課	家政科
地域連携	英語科

総合評価

A

3

部活動・農業クラブ・家庭クラブ活動の活性化

活動時間および部員数の確保
指導体制の充実
積極的な情報発信

教務課	園芸科
生徒課	家政科

総合評価

A

4

安全で安心な学校生活の創造

落ち着いて学習できる環境づくり
生徒会・委員会活動の活性化
教育相談の充実

教務課	厚生課
生徒課	事務室

総合評価

A

1 生徒一人ひとりの進路実現

学ぶ力の育成と学力の向上

計画と達成基準

中間達成状況

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
教務課	普通科 ①途中成績(目安は第3回定期考査終了時点)を算出し、成績不振者や欠課時数超過のおそれがある者の一覧表を作り、職員会議等で示す。また、 該当生徒の個票をつくり学級担任に配布し、面談で活用できるようにする。 ②途中成績活用のシステム化をする。	①第4回定期考査および第5回定期考査の全学年の警告点数が前年を下回る。(昨年122) ② 全教科担任が関わる途中成績算出システムを構築できる。	普通科 ①2学期以降に結果が出る予定 ②10月職員会議に途中成績入力要領を提案(中間成績入力締め切り…11/6)	B
	普通科 ①進路LHR、面談や集会等を通し学習の大切さを呼びかける。学習習慣(生活習慣)の定着を図るために、学習実態調査や学習計画表などを活用する。 ②3年間を見通した教科指導・進路指導をする。基礎学力を定着させるために、授業を基本として、土曜活用、補習、休日学習会等を活用する。	普通科 ① 学習実態調査 ・1日の学習時間 2時間未満の生徒数 1年 25名以下 2年 15名以下 3年 5時間以上の生徒を40%以上(昨年39%) (3年2回調査) 学校自己評価 「学習実態調査や土曜活用、学習会を通して学習習慣が身に付いている」 生徒評価指数 10以上 (昨年9.9) ②1年生では、国公立大学に進学できる学力を持つ生徒(進研模試における 全国偏差値54以上)およびそれに続く層(全国偏差値50以上)を増やす。 2年生は 1年1月時の維持を目標 とする。 3年生は 11月マークで全国偏差値48以上を30名以上にする。(昨年27名)	普通科 ① 学習実態調査 学習時間2時間未満の生徒数 1年:1回26名, 2回27名 2年:1回22名, 2回26名 休日に学習時間を増やせない。 3年生5時間以上の生徒数35.8%(39名) 他学年より常に30分学習時間が少ない学年であったが、昨年よりも11分減にとどまった。 学校自己評価 「学習実態・・・学習習慣が身に付いている」評価指数 1年9.9, 2年5.2, 3年8.5 ②1年54以上 7月29名, 50以上 7月56名(4年前とほぼ同じ水準) 2年54以上 1月27名→7月32名 50以上 1月47名→7月41名(入学時から順調に伸ばしている。) 3年6月マークで全国偏差値48以上は23名, 46以上では35名 厳しい状況	
教務課 進路課	専門科 ①漢字テスト、計算力テストの年間平均点を各クラスで掲げ、お互い励まし合いながら目標を達成する。 ② 学期毎に最優秀者を発表する。 漢字 100点 計算力 90点 ③ 個人に優秀者シール台紙を配布し、漢字100点、計算力90点以上に優秀者シールを貼らせ、意識の向上を図る。 ④ 毎学期末考査期間中に生活実態調査を実施し、考査に向けての学習意欲を高める。	①②③昨年度の平均点を上回る平均を目標とする。 生活実態調査 3回の平均学習時間 各 学科の達成した生徒の割合 園芸科・・・1.5時間以上 60%(昨年平日) 家政科・・・2.5時間以上 60%(昨年平日)	専門科 ①②③9月末現在漢字テスト8回(2年は7回)、計算力テスト9回(2年は8回)実施各クラスの平均点 (青字のクラスは、目標クリア中) ④ 第1回生活実態調査 園芸科 1.5時間以上 77% 家政科 2.5時間以上 79%	B
生徒課	○規則正しい生活を送らせるため、勉強時間確保を考え、携帯電話・スマホ使用時間を21:00時以降使用しないように、集会などで呼びかける。	○ 生徒課アンケート 「携帯電話・スマホ使用時間を21:00時以降使用しない」の結果が、[守れた・だいたい守れた]で、60%以上。	○注意喚起を促すために、スマホ・携帯の講演会を実施する予定。	

学校自己評価・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成27年12月6日までに実施。

回収率 生徒 99.5% (548人/551人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507人/551人、H26 90.4%)、教職員 100% (65人/65人、H26 100%)

評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
 ⇒ (最高) **20.0**, (最低) **-20.0**

総合評価
B

最終達成状況

担当(分掌)
教務課

普通科

- ①(1)該当生徒がいるクラス担任に学年一覧表を配布
- (2)11月職員会議で成績不振者、欠課時数超過者を議題とし、共通理解を図った。
- (3)第4回考査警告点数計 87(H26 75)

最終達成状況

②10月職員会議に途中成績入力要領を提案(中間成績入力完了…11/6)

最終評価

B

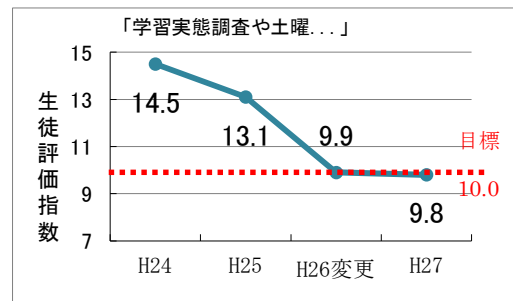
進路課

普通科

①学習時間2時間未満の生徒数

1年: 3回 18名
2年: 3回 16名

最終的には目標の人数になったが、早い時期から達成できるようにしたい。



1年生が上昇するのは例年のことであるが、例年よりよく伸びている。2年生については

50以上は増加しているが、**54以上は減少**。

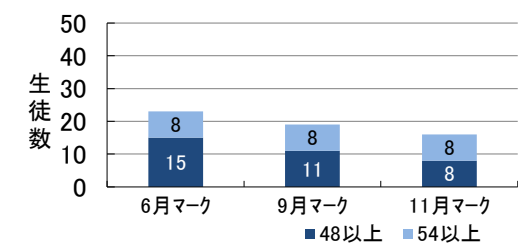
例年同様3科に比べ5科は少し低い。

理科の遅れをカバーするため、

3年生の土曜活用の回数を増やした。

休日学習会は午後11回、全日15回実施(1月末まで)

平成27年度 進研模試偏差値(3年生)



B

学年+2時間の達成者数の割合

1年: 3回 44名 39% **来年は40%に**

2年: 3回 18名 18% **来年は25%に**

学校自己評価 「学習実態調査や土曜活用、夏期学習会等を通して学習習慣が身についている。」

生徒評価指数 **9.8**(1年 9.7 2年 8.8 3年 10.8)

(昨年の3年 11.4) 2,3年に意識の向上が見られる。

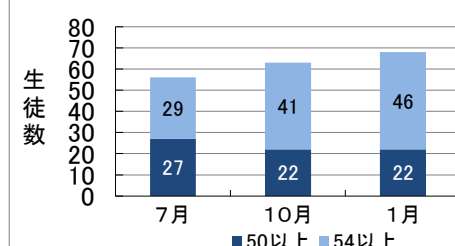
②1年 54以上 10月 41名 1月 46名

50以上 10月 63名 1月 68名

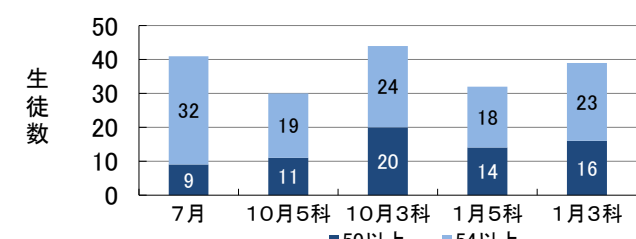
2年 54以上 10月 19名(5科)24名(3科) 1月 18名(5科)23名(3科)

50以上 10月 30名(5科)44名(3科) 1月 32名(5科)39名(3科)

平成27年度 進研模試偏差値(1年生)



平成27年度 進研模試偏差値(2年生)



教務課
進路課

専門科

①②③1月末現在漢字テスト1年15回、2年14回、

3年13回実施。

計算力テスト1年18回、2年17回、3年16回実施

各クラスの平均点

青字のクラスは目標クリア

優秀者については学期毎に便りで発表すると共に特別がんばり

シールを貼らせた。

目標をクリアできていないクラスもあるが、ほぼ昨年度の平均点を上回っており、意識の向上がみられた。

クラス	<漢字テスト>	<計算力テスト>
E1	72.0	73.3
E2	83.3	81.2
E3	89.8	73.5
K1	88.3	86.6
K2	77.5	78.9
K3	98.4	95.4

④生活実態調査

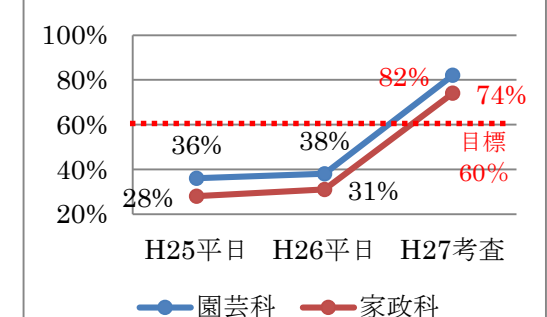
園芸科 1.5時間以上 82%

(3.5時間以上 38%)

家政科 2.5時間以上 74%

(3.5時間以上 56%)

④生活実態調査
各学科の目標を達成した生徒の割合



B

生徒課

○生徒課アンケート 『携帯電話・スマホ使用時間を21:00以降使用しない』で **39.0%**

10月に業者によるスマホ・携帯電話の利用方法の講演会を実施した。今後も長期にわたり指導していきたい。

C

授業改善による教師力の向上

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況 (9月末現在)	中間評価
教務課	普通科 ①授業評価アンケート結果から教員個々が改善目標を設定し、授業改善をはかるシステムを設定する。 ②授業評価アンケートの評価指数が高い項目を持つ教員に公開授業をお願いし、教員間の積極的な授業参観を図る。	学校自己評価 普通科 ①「授業は、プリントや ICT 機器などを利用して、わかりやすいように工夫されている。」生徒評価指数 10以上(昨年 8.3, 一昨年 10.2) ②「他の先生が授業を見学に来ることがよくある」生徒評価指数 3以上(昨年 2.0)	学校自己評価 普通科 ①「わかりやすいように工夫されている」評価指数 10.2 ②「他の先生が授業を見学に来ることがよくある」評価指数-3.1	B
	専門科 ○ICT機器の活用を促進し、さらにICT機器を利用した授業ができるよう、研修会を年2回以上開く。 ○「情報活用能力育成のための授業実践」協力校として、シンキングツールを利用することで授業改善を進める。	専門科 ○「授業は、プリントや ICT 機器などを利用して、わかりやすいように工夫されている。」生徒評価指数 9以上(昨年 8.2, 一昨年 10.1) ○シンキングツールを利用した授業を年1回以上実践する。	専門科 ○学校自己評価アンケート「授業は・・・わかりやすいように工夫されている」評価指数 6.4 ○現在研修中	
進路課	専門科 ○教員研修として面接指導講習会を開催し、進路指導に役立ててもらおう。	専門科 ○ 進路課アンケート 指導講習会に参加し(よかった, とても良かった)80%以上	専門科 ○進路課研修講座「効果的な就職指導」参加者 14 名 アンケートとても良かった・良かった…100%	A
園芸科	○ICTを活用した授業を行い、わかる授業を行う。	○ 専門科生徒アンケート 「学習を助けるためのプリント、視聴覚教材を準備している」が「よくあてはまる」で 80%以上(昨年 78.5%)	○ 専門科生徒アンケート 「学習を助けるためのプリント、視聴覚教材を準備している」が「よくあてはまる」で 70.5%。	B

統一した指導による規律ある生活態度の育成

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況 (9月末現在)	中間評価
生徒課	①学校内外で相手より先に気持ちのよい挨拶ができるよう、毎月10日を中心に挨拶運動を実施する。 ②統一した、服装指導を徹底する。しっかりと声掛けをし、違反している生徒はイエローカードにより段階的指導をする。 ③遅刻数を減少させるため、遅刻の多い生徒は個人指導を実施する。	生徒課アンケート ①「挨拶が自主的にできた」が、[とても出来た・出来た]で、 85%以上(昨年 81.8%) ②「制服がきちんと着こなせた」が、[きちんと着こなせた・着こなせた]で 85%以上(昨年 96.2%) ③両校地の統一した基準(業間遅刻も加算)で 450回以内(一昨年 537回, 昨年 435回)	生徒課アンケート ①②年度末に調査予定だが、「挨拶が自主的にできている」や「制服をきちんと着こなしている」生徒が増えている。 イエローカードの導入は見直す予定。 ③南北両校地合計 283 回(昨年同時期 170 回)	B
	教務課	専門科 ○机の上に 教材の準備をして ベル着をし、始業ベルとともに授業を開始できるよう指導する。	専門科 ○ 授業評価アンケート 「あなたは 教材の準備をして ベル着ができていますか」 85%以上(一昨年 80%, 昨年 84.8%)	専門科 ○ 授業評価アンケート 「あなたは教材の準備を・・・」の結果で、「よくできている・できている」 72.7%
家政科	○始業までに授業の準備を整えて、着席しておくよう指導する。	○ 授業担当者が始業時に確認を行い、「授業の準備を整えて着席することができる生徒」が80%以上	○ 家政科教員アンケート 「授業の準備を整えて着席することができた生徒」が、95%以上が2科目、80～94%が3科目、50～79%が4科目(9科目中) <参考>専門科生徒アンケート「よくできている・できている」95.6%	C
園芸科	①授業の開始と終わりや実習(行事)時に気持ちの良い挨拶ができるよう指導する。 ②正しい服装・身だしなみで実習を行うように指導する。	専門科生徒アンケート ①「気持ちのよいあいさつができた」が「よくあてはまる」で 80%以上(昨年 78.6%) ②「実習時に服装・身だしなみを整えた」が「よくあてはまる」で 80%以上(昨年 92.3%)	専門科生徒アンケート ①「気持ちのよいあいさつができた」が「よくあてはまる」で 68.8% ②「実習時に服装・身だしなみを整えた」が「よくあてはまる」で 85.4%。	B

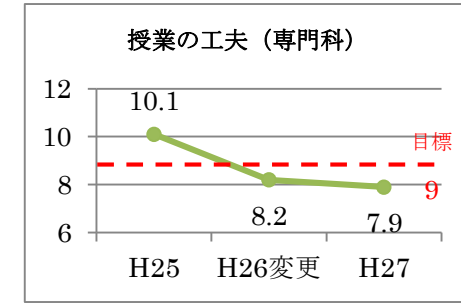
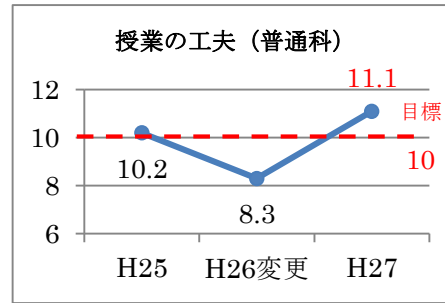
学校自己評価・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成27年12月6日までに実施。

回収率 生徒 99.5% (548人/551人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507人/551人、H26 90.4%)、教職員 100% (65人/65人、H26 100%)

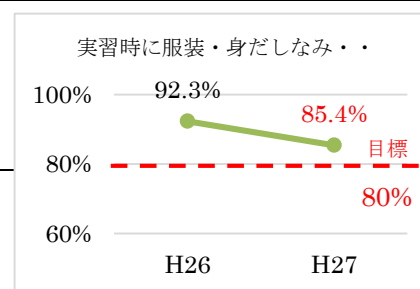
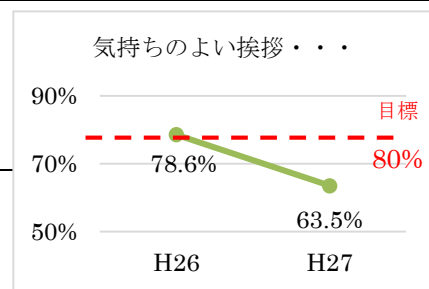
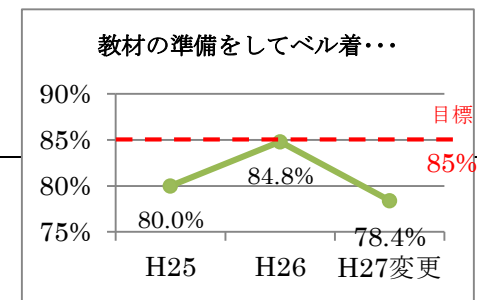
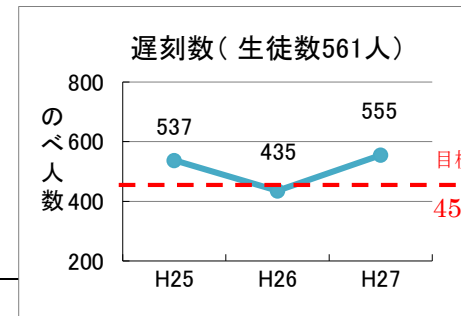
評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
 ⇒ (最高) 20.0, (最低) -20.0

最終達成状況

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
教務課	普通科 学校自己評価 ①「授業は、プリントやICT機器などを利用して、わかりやすいように工夫されている」 <u>評価指数 11.1</u> ②「他の先生が授業を見学に来ることがよくある」 <u>評価指数 1.9</u>	C
	専門科 学校自己評価 ○「授業は、プリントやICT機器などを利用してわかりやすいように工夫されている」 <u>評価指数 7.9</u> ○ <u>シンキングツール</u> を使用した授業を1～3回実施した教員は7名(18名中)	
進路課	専門科 ○進路課研修講座「効果的な就職指導」参加者14名 進路課アンケート とても良かった・良かった… <u>100%</u> 「勉強になった」「自信をもって指導したい」等の感想も多くあり、進路指導に役立った。	A
園芸科	○ 専門科生徒アンケート 「学習を助けるためのプリント、視聴覚教材を準備している」が「よくあてはまる」で <u>64.5%</u>	B



担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
生徒課	生徒課アンケート ①『進んで気持ちのよい挨拶をする』で <u>83.0%</u> 自らすすんで挨拶ができる生徒が大半である。 ②『制服の着こなしについて、生徒がきちんと着こなしている』で <u>96.3%</u> 南北統一した服装指導については、連絡を密にし、集会で南北生徒課の先生方で声掛けをすることができた。 イエローカードについては、内容に問題があり今後の検討事項になった。 ③遅刻については、 <u>合計 555 件</u> と専門科の遅刻が非常に増加しているために、 <u>全体的に大変多くなった。</u>	B
	教務課 専門科 授業評価アンケート 「教材の準備ができていますか」「よくできている・できている」 <u>78.4%</u>	
家政科	○ 家政科教員アンケート 「授業の準備を整えて着席することができた生徒」が、 <u>95%以上が2科目、80～94%が7科目、50～79%が0科目(9科目中)</u> <参考>専門科生徒アンケートでは、93.6%(昨年 93.9%)	A
園芸科	専門科生徒アンケート ①「気持ちのよいあいさつができた」「よくあてはまる」が <u>63.5%</u> ②「実習時に服装・身だしなみを整えた」が「よくあてはまる」が <u>85.4%</u>	B



2 地域と連携したグローバル人材の育成

地域に学ぶ「総合的な学習の時間」の充実によるキャリア教育の推進

計画と達成基準

中間達成状況

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
地域連携 ・進路課	普通科 ○進路意識を明確にするために総合的な学習の時間の「企業訪問」「企業説明会」の事前・事後の指導を充実させる。	普通科 ○「企業訪問」「企業説明会」への事前・事後指導のスケジュール化およびシートの作成をし、評価アンケートを実施し、肯定的な評価 80%以上。	普通科 ○2年次生は12月に実施予定の「企業訪問」、1年次生は1月実施予定の「企業説明会」の準備が進んでいる。	B
	家政科 ○地域連携を図り、専門の学びを生かした活動を推進する。 ・ハッピーライフ講座 ・地域型福祉学習事業 ・井原デニムの研究 ・各種コンテスト ・井原高校ふれ愛まつり	○ 専門科生徒アンケート 「地域連携の活動をすることによって、専門的な知識や技術を広げることができた」が「非常によくあてはまる」「よくあてはまる」が 90%以上 「地域連携の活動をすることによって、自分の進路について考えるきっかけになった」が「非常によくあてはまる」と「よくあてはまる」で 90%以上	専門科生徒アンケート 「地域連携の活動をすることによって、専門的な知識や技術・・・」が「非常によくあてはまる」「よくあてはまる」が 83.6% 「地域連携の活動を・・・自分の進路について考えるきっかけになった」が「非常によくあてはまる」と「よくあてはまる」で 83.5%	B

コミュニケーション力・プレゼンテーション力(表現力)の向上

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
教務課	普通科 ①LHR やさわやかタイム等で、プレゼンテーションやディベートの実施 ②「言語活動の充実」に関わる校内研究授業を各学期1回以上実施する。	学校自己評価 普通科 ①「LHR, さわやかタイム, 授業などを通じて、コミュニケーション力が身につけている」 評価指数 6.3 以上 (昨年 6.3) ②研究授業参観教員数と研究協議参加教員数の計が昨年を上回る。(昨年 24)	学校自己評価 普通科 ①1分間スピーチ…1,2年(金)3年(月) クラス討論…3年(6/17,10/2) 「LHR, さわやか・・・, コミュニケーション力が身につけている」評価指数 3.7 ②研究授業参観者数+研究協議参加者 8名	B
	専門科 ○「いばらぶ」を充実させ、地域の見識を深め、自らの進路を考える契機とする。また、体験したことをまとめ、発表することで表現力の向上をめざす。	専門科 ○「ICT機器などを用いながら自分の調べたことや意見を発表する機会がある」が 評価指数 5 以上 (昨年 4.2)	専門科 ○「ICT機器などを用いながら自分の調べたことや意見を発表する機会がある」が評価指数 3.1	B
地域連携 ・進路課	普通科 ○「総合的な学習の時間」の学びについての発表会を実施し、自分の経験や学びを公の場できちんと発表できるようにする。	普通科 ○ 総合的な学習の時間のアンケート コミュニケーション力や表現力について問い、 肯定的な評価 80%以上。	普通科 ○2年次生12月の「企業訪問」や、1年次生1月の「企業説明会」実施後の発表会に向けて準備が整いつつある。	B
	園芸科 ○交流授業や各種行事の事前、事後指導の際、ワークシートのまとめや発表会の充実を図る。(教科間連携も活用する。)	○ 専門科生徒アンケート 「行事や交流の準備を計画的に行い、実施後に反省・評価ができたか」が「できた」 80%以上 (昨年 71%)	○ 専門科生徒アンケート 「行事や交流の準備を計画的に行い、実施後に反省・評価ができたか」が「できた」72.0%	B

学校自己評価・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成27年12月6日までに実施。
 回収率 生徒 99.5% (548人/551人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507人/551人、H26 90.4%)、教職員 100% (65人/65人、H26 100%)
 評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
 ⇒ (最高) 20.0, (最低) -20.0

総合評価
A

最終達成状況

担当(分掌)

地域連携
 ・進路課

普通科
 ○2年次生は12月に「企業訪問」、1年次生は1月に「企業説明会」が実施された。それぞれ初めての学年団の報告会やクラスでの報告会が実施され、各自の学びが深められるとともに、他の生徒に共有する事ができた。
 事後アンケート 「進路についての考えを深めることができたか」(1年・2年) 肯定的評価 94.1%

最終評価

A

家政科

専門科生徒アンケート
 ○「地域連携の活動をすることによって、専門的な知識や技術を広げることができた」が「非常によくあてはまる」「よくあてはまる」が 74.3%
 ○「地域連携の活動をすることによって、自分の進路について考えるきっかけになった」が「非常によくあてはまる」と「よくあてはまる」で 61.5%

B

担当(分掌)

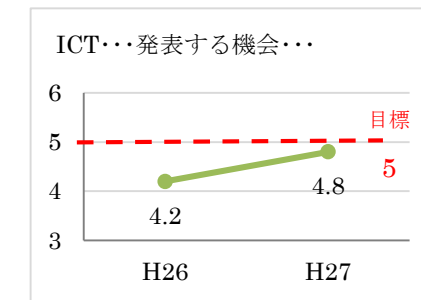
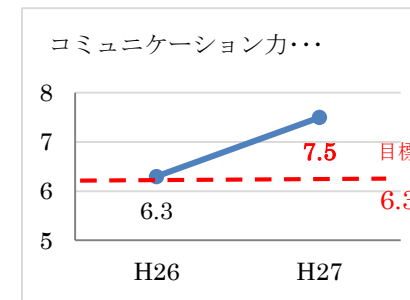
教務課

学校自己評価
 普通科
 ①1分間スピーチ…1,2年(金曜日)3年(月曜日)
 クラス討論…3年(6/17,10/2),2年(12/24),1年(11/25,2/3)
 「LHR,さわやかタイム,授業などを通じて、コミュニケーション力が身についている」 評価指数 7.5
 ②研究授業参観者数+研究協議参加者 25
 専門科
 ○「ICT機器などを用いながら自分の調べたことや意見を発表する機会がある」 評価指数 4.8

最終達成状況

最終評価

A



地域連携
 ・進路課

普通科
 総合的な学習の時間のアンケート
 「『企業訪問』『企業説明会』並びに事後の『報告会』でコミュニケーション力やプレゼンテーション力が向上したか」 肯定的評価 70%

B

園芸科

専門科生徒アンケート
 「行事や交流の準備を計画的に行い、実施後に反省・評価ができたか」が「できた」 66.6%

B

英語力・英語コミュニケーション力の向上

計画と達成基準

中間達成状況

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
地域連携 ・英語科	<p>普通科</p> <p>①1年次に英検準2級, 2年次に英検2級の合格を目指す。</p> <p>②1年次の英語科のALTとの協同授業を利用して, 英語でコミュニケーションを図る姿勢を培う。</p> <p>③英語スピーチコンテストや国際交流行事への積極的な参加を呼びかける。</p> <p>④地域からの英語の指導者を招聘し, 各種コンテストに参加する。</p> <p>⑤英語コミュニケーション力の向上をはかる講演会等を実施する。</p>	<p>普通科</p> <p>①1年次終了時点での準2級合格者が 10名以上。2年次終了時点での2級合格者が 7名以上。</p> <p>(昨年度: 1年次準2級合格者数 9名, 2年次2級合格者数 5名)</p> <p>② 学校自己評価</p> <p>「学習した英語を用いて自らを表現できる機会を得ることができた」1年生結果「非常にあてはまる」「よくあてはまる」で 80%以上(昨年60.6%)</p> <p>③④各種コンテストで 入賞する。</p> <p>⑤講演会等が実施できた。</p>	<p>普通科</p> <p>①第1回(7月実施)英語検定の結果 2級合格4名/18名, 準2級合格11名/26名, 3級9名/11名</p> <p>② 学校自己評価</p> <p>「学習した英語を用いて自らを表現できる機会を得ることができた」1年生結果 「非常にあてはまる」「よくあてはまる」で45.6%</p> <p>③④スピーチコンテスト・イングリッシュランドボランティア24名参加, グローバルセミナー3名参加, 吉備国際大学英語スピーチコンテスト2名参加, 岡山県エッセイコンテスト3名応募, 英語ディベートコンテスト5名 参加予定</p> <p>⑤未実施</p>	<p>B</p>

学校自己評価・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成27年12月6日までに実施。

回収率 生徒 99.5% (548人/551人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507人/551人、H26 90.4%)、教職員 100% (65人/65人、H26 100%)

評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
⇒ (最高) **20.0**, (最低) **-20.0**

最終達成状況

担当(分掌)

地域連携 ・英語科

普通科

①第1回(7月実施)英語検定の結果

2級合格4名/18名 準2級合格11名/26名 3級9名/11名

学校自己評価

②「学習した英語を用いて自らを表現できる機会を得ることができた」**1年生結果** 「非常にあてはまる」「よくあてはまる」で **65.2%**

③④スピーチコンテスト・イングリッシュランドボランティア24名参加, グローバルセミナー3名参加, 吉備国際大学英語スピーチコンテスト2名参加

岡山県エッセイコンテスト3名入選

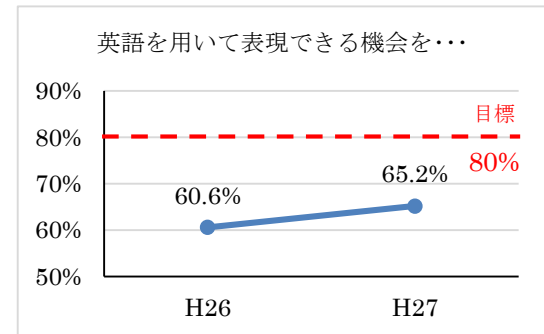
英語ディベートコンテスト5名 3位入賞

⑤3月22日英語力向上セミナー実施予定

最終達成状況

最終評価

A



3 部活動・農業クラブ・家庭クラブ活動の活性化

活動時間及び部員数の確保

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
生徒課	①活動時間を守らせるため、各学期に1回(5～7日程度)下校指導を実施する。 ②部活動入部率をあげるために、担任面談で働きかけたり、少人数の部活にもアピールの場をもうけて情報提供を促す。	① 生徒課アンケート 「 <u>下校時刻が守れましたか</u> 」の結果で、「 <u>守れた、だいたい守れた</u> 」が85%以上 ②入部率 <u>85%以上(昨年85.1%, 一昨年81.5%)</u>	①年度末に調査予定。冬季時間において、下校時刻を守らせるために、活動時間の確保することを、働きかけていく。 ②入部率88.2%で目標値は達成している。	B

指導体制の充実

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
生徒課	○部活動の日を設けて、部活動の活性化を図る。	○県ベスト16以上の成績の増加。	▶ 新体操部をはじめ、陸上競技部・野球部・水泳部などが中国大会以上に7出場しており、大いに盛り上がっている。	A
家政科	○あいさつ運動を活性化するために、家庭クラブ役員が、あいさつ運動の状況を調査し、あいさつ運動の呼びかけを行うよう指導する。	○ 専門科生徒アンケート 「自主的に気持ちのよいあいさつができた」の結果で、「非常によくあてはまる・よくあてはまる」80%以上 ○ 家庭クラブ役員調査 「あいさつ当番が積極的にあいさつをしている」が「非常によくできている・よくできている」80%以上	▶ ○ 専門科生徒アンケート 「自主的に気持ちのよいあいさつができた」の結果で、「非常によくあてはまる・よくあてはまる」86.4% ○ 家庭クラブ役員調査 「あいさつ当番が積極的にあいさつをしている」が「非常によくできている・よくできている」70.0%	B

積極的な情報発信

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
教務課	○HPのリンクの整理や、古いページの削除をさらに推進するために教職員に呼びかけをする。 普通科 ○塾等への情報発信や情報共有を目指した塾訪問や塾との懇談会を複数回実施する。	○リンクの設定を見直したり、長く更新されていないページ等は削除したりして、最近の情報のみが見えるHPになる。(H26 一部不十分) 普通科 ○複数の塾訪問や <u>複数の塾との懇談会を実施する。(H26 塾訪問1塾3回, 懇談会1塾1回実施)</u>	▶ 普通科 ○新しい情報を積極的にアップしているが、固定ページの更新はできていないページもある。 ○久能(7/9)進英(7/10)知Q(7/14) 3塾各1回	B
生徒課	○部活動ホームページを充実させるために、総体関係の写真撮影してもらい、1回目は6月末までに更新をする。	○全部活動が <u>年間2回は活動内容を更新する。</u>	▶ ○6月までに更新した部は、7つの部と少ない。これからしっかりと呼び掛けていきたい。	C
園芸科	①学校行事での <u>活動紹介ポスター、活動パネルの製作と展示</u> をする。 ②農ク新聞を発行し、積極的に活動状況を発信する。 ③Webページのアップと更新	①地域ふれあい市、いろは祭、ふれ愛まつり等での <u>パネル展示ができた。</u> ②農ク新聞(<u>年間5回</u>)を発行した。 ③Webページによる発信を <u>年間20回以上</u> 行い、学科ページを更新できた。	▶ ①昨年度作成した学校紹介パネルの写真を更新し、展示できた。 ②農ク新聞4回発行 ③Webページによる発信8回、学科ページは、更新準備中。	B

学校自己評価・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成27年12月6日までに実施。

回収率 生徒 99.5% (548人/551人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507人/551人、H26 90.4%)、教職員 100% (65人/65人、H26 100%)

評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
⇒ (最高) 20.0, (最低) -20.0

総合評価

A

最終達成状況

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
生徒課	<p>① 生徒課アンケート 『時間を守る』で、「守れた」・「おおむね守れた」が 95.4% 各学期に1回、下校指導を実施した。</p> <p>② 入部率アップでは、年度当初呼び掛け、たくさんの生徒 (88.2%) が文化部・運動部に入部し活動している。</p>	A

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
生徒課	<p>○ 本年度は 7つの部が中国大会以上に出場出来た。</p> <p>○ 部活の日については、あまりアピールできなかったが、顧問の先生によっては積極的に部活動の指導に当たられていた。</p>	A

家政科	<p>○ 専門科生徒アンケート</p> <p>「自主的に気持ちのよいあいさつができた」が「非常によくあてはまる」と「よくあてはまる」 74.3%</p> <p>○ 家庭クラブ役員調査</p> <p>「あいさつ当番が積極的にあいさつをしている」が「非常によくできている」と「よくできている」 76.5%</p>	B
-----	--	---

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
教務課	<p>○ 新しい情報を積極的にアップしているが、固定ページの更新はできていないページもある。</p> <p>○ 普通科</p> <p>久能塾(7/9)進英ゼミナール(7/10, 1/14) 知Q塾(7/14)を訪問</p> <p>塾との連絡協議会を実施(1/27 進英ゼミナール)</p>	B

生徒課	<p>○ ホームページ更新については、先生方に各学期にお願いをしたが、残念ながら年2回の更新は達成できなかった。しかし、1回更新した部はたくさんあった。</p>	C
-----	--	---

園芸科	<p>① 昨年度作成した学校紹介パネルや各部門の活動紹介について 学習発表会や交流活動の際に写真を更新し、展示することができた。</p> <p>② 農ク新聞6部発行</p> <p>③ Web ページによる発信 25回</p> <p>学科ページは、更新中。</p>	A
-----	--	---

4 安全で安心な学校生活の創造

落ち着いて学習できる環境づくり

計画と達成基準

中間達成状況

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
厚生課	○生徒が主体的に清掃活動に取り組むために、呼びかけたり、委員会活動を推進したりする。	○ 学校自己評価 「生徒が清掃活動に主体的に取り組んでいる」 生徒評価指数 10.0 以上 (昨年 9.8) 「校内は清掃が行き届いておりきれいな状態である」 生徒評価指数 8.5 以上 (昨年 7.3)	○ 学校自己評価 ・「清掃活動に主体的に取り組んでいる」評価指数 8.2 ・「校内は清掃が行き届いており、きれいな状態である」評価指数 6.4	B
事務室	○両校地の「耐震補強工事」における危険な状態の有無について随時点検をし、危険箇所を早期発見することにより、生徒・職員に注意を促す。	○耐震工事に係わる生徒職員の 事故災害や苦情が0 である。	○北校地では、週間会議等で業者と連絡を取ってきたが工事内容の理解に相違があり室内が汚れてしまい苦情があった。 ○南校地は、無事工事が終了した。	B

生徒会・委員会活動の活性化

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
教務課	①生徒が関わる図書だよりの発行回数を増やす。 ②図書委員会主催読書会や読書LHRの回数を増やす。 普通科 ○読書週間を設け、図書委員の活動を活性化し、生徒の図書館利用を増やす。	①図書だよりの 発行回数8回以上(昨年 普通科6回 専門科7回) ②図書委員会主催読書会、読書LHRの 実施回数がともに2回以上 普通科 ○読書週間中のさわやかタイムで朝読書が実施できる。	①図書だよりの(普通科2回 専門科4回 合同1回) ②図書委員主催読書会1回 (6/19) 普通科 ○読書週間を実施予定。	B
生徒課	①生徒会・各種委員会活動を活性化させる。[体育祭・いろは祭等の盛り上げ] [挨拶運動への積極的な参加] ②生徒会活動を知らせるために、 生徒会・委員会新聞の発行 を行う。	① 生徒課アンケート 「行事に対し積極的に参加できた」の結果で、「たいへん出来た・出来た」が 85% 以上(昨年 83.8%) ②年間5回の発刊	①年度末に調査予定だが、各種行事に積極的に参加している生徒が多い。(体育祭・文化祭が大いに盛り上がった。) ②生徒会新聞を3回発行。	B
厚生課	委員会活動を活性化 ① 厚生委員会 学期1回の清掃用具の点検、清掃状況点検、清掃ボランティア参加の呼びかけ、 清掃啓発ポスターの作成・掲示 ② 保健委員会 保健便りを当番制で月1回発行する。 専門科 ○生活委員会 ・教室の掲示物の整理を呼びかける。 ・購買での 販売物品アンケート を実施する。	①・清掃状況点検を年2回以上実施し、清掃重点箇所の清掃を呼びかけた。 ・ポスターを作成し、各クラスへ掲示する。 清掃状況点検などを通じて、清掃の意義を全校へ訴えることができた。 ② 保健便りを毎月発行した。 専門科 ○・教室の掲示物の整理が行われた。 ・販売物品アンケート を実施できた。	①・清掃状況点検を1回実施。但し、重点箇所の抽出や当該箇所の清掃呼びかけは不十分 ・ポスターを作成中 ②保健委員により保健だより毎月発行 専門科 ○・教室の掲示物等の整理を今後進めていきたい。 ・販売物品アンケートを今後準備する。	B

教育相談の充実

担当(分掌)	具体的計画	今年度の達成基準(昨年度までの状況)	中間達成状況(9月末現在)	中間評価
厚生課	○日常の変化を見逃さず、教員全員で生徒を支援できる体制を整えるために、気づきシートの見直しや改善を行う。	○導入先進校の視察や資料収集などを行い、本校独自の気づきシートの改善を進めた。	○先進校視察、資料収集実施。校内の指導体制改善を進めている。	A

学校自己評価

・・・生徒、保護者、教職員を対象に行ったアンケート調査。平成 27 年 12 月 6 日までに実施。
 回収率 生徒 99.5% (548 人/551 人、H26 98.8%)、保護者 92.0% (507 人/551 人、H26 90.4%)、教職員 100% (65 人/65 人、H26 100%)
 評価指数の計算方法 (よくあてはまる割合)×2+(ややあてはまる割合)×1+(あまりあてはまらない割合)×(-1)+(まったくあてはまらない割合)×(-2)
 ⇒ (最高) 20.0、(最低) -20.0

総合評価
A

最終達成状況

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
厚生課 〇 学校自己評価 ・「清掃活動に主体的に取り組んでいる」 生徒評価指数 10.7 ・「校内は清掃が行き届いており、きれいな状態である」 生徒評価指数 7.6		B
事務室 〇北校地は、中間評価のときに課題となった、室内の汚れについて、その後、適切に処理した。 〇南校地は、無事工事が終了した。		B

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
教務課 ① 図書だより (普通科 5 回 専門科 8 回 合同 2 回) ② 図書委員主催読書会 2 回 (6/19, 10/28) 読書会 LHR・・・北各学年 1 回(1 年 10/26, 2 年 10/7) 南 2 回(3 月に 2 回目実施) 普通科 10/26～28 読書週間実施(読書週間以外週貸出冊数 25→読書週間貸出冊数 89)		B

生徒課 ① 生徒課アンケート 「各種行事に積極的に参加できた」は、 83.1% 体育祭・いろは祭・挨拶運動・下校指導など生徒会・委員会とも積極的に参加した。 ② 生徒会新聞は、本年度 5 回発刊でき、生徒会・委員会活動が生徒達によく伝わった。		A
---	--	---

厚生課 ① 厚生委員会 ・ 清掃ボランティア等の学校行事で、企画運営に積極的に携わることができた。 ・ 新たな試みとして清掃啓発ポスターを作成し、清掃活動の意義について全校生徒に訴えることができた。 ② 保健委員会 ・ 保健だよりを毎月発行することができた。 ・ 講演会や学校保健委員会など学校行事で進行や発表を行うなど、活発に活動することができた。	専門科 〇 委員会で内容を決め、委員が各クラスで 教室の整備などを呼びかけた。 ・ 完成した販売品アンケートを、年度末に 1・2 年生に実施する。	A
--	---	---

担当(分掌)	最終達成状況	最終評価
厚生課 〇 先進校視察、資料収集を積極的に行った。校内における教育相談の指導体制改善を進めることができた。		A